

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

| | |
|-------|------------|
| 氏名 | 妻藤 純子 |
| 所属機関名 | 教育学部初等教育学科 |
| 職位 | 教授 |
| 在籍年 | 8 年 |

教育の責任

私は小学校教諭の経験を生かし、実務家教員として初等教育学科学生の育成に努めている。図画工作科教育の授業を中心に、生活科教育、教育実習事前指導における道徳、探究的な活動を重視した授業（探究ゼミ・探究活動）、卒業研究等を担当している。教育ディベロッパー、広報委員会学科代表、学生支援機構会議教育学部代表の役を担っている。

教育の理念

私の教育の理念は、「想像力を働かせ、適切に対応できる力を育てる」「多様な価値観を理解し、尊重し、享受できる人材を育てる」ことである。想像力の土台となるものは、「体験」であると考えている。体験したあらゆる出来事やそのときに感じた思い等を関連付けることで未来を予想できる。図画工作科では教科書をもとに、学校環境や児童の実態に応じて学習内容をアレンジしなければならず、発想を広げながら効果的な授業をつくりだす力が教師には必要となる。また表現教科である図画工作科は、児童の多様性を基本とする教科であり、個々の考えを尊重しつつ表現にかかわる力を高める指導力が求められる。学生自身が、体験を通して多様な価値を認識し、互いに認め合える学びの場になるよう授業を工夫しながら学生の育成に努める。教師としてだけでなく人間力の育成を意識した授業を提供していきたい。

教育の方法・方針

教育の理念の実現に向け、2つの教育の方法をあげる。

(1)「体験を通してものの本質を理解できるようにする」

教育法等で行う授業研究の難しさは、児童が目の前にいないことである。児童とかかわった経験の浅い教育実習前の学生にとっては、児童の学びの姿を想像することは容易ではない。そのため児童の活動の画像や作品、活動後の感想等の情報を提供することで児童理解ができるようにしている。また児童と同じ条件で作品を制作することで、具体的な学習のイメージをもちながら教材への理解を深められるようにしている。

(2)「多様なものの見方や考え方に気づき、享受する態度を育てる」

創造力の育成を図るとともに、他者の考えを知り、他者から学ぶことのよさを実感できるようにするため、作品制作や教材開発等「自分で考える・ゼロから生み出す」活動を取り入れている。そして、各自のアイデアや意見を共有する場を設けることで、他者の考えの特徴やよさに気づき、学び合えるようにしている。グループでの活動であっても、他者にまかせるのではなく、自分の意見をもつことを大切にしている。

教育の成果

(1)「体験を通してものの本質を理解できるようにする」について

実際の児童の画像や作品を見ることで、児童の活動の様子だけでなく、思考の過程や対象の

捉え方、発想の豊かさに気付くことができた。表現領域の1つである「造形遊び」は、解説を聞くだけでは理解の難しい内容であるが、学生が児童と同じ条件で体験したことにより、理解を深めることができた。また指導案作成前に実技をしたことで、教材に対する理解が深まり、自分の実技の実際を児童に置き換えながら指導のポイント等を具体的に考え、指導案を作成する姿が見られた。

(2)「多様なものの見方や考え方に気づき、享受する態度を育てる」について

授業展開を考えたり、教材を開発したりすることは個人では容易ではなく、学生によっては、既習事項を繰り返し説明する必要があった。しかし、難しいが故に自ずと学生相互の意見交流や、助言し合う姿が見られ、教材の捉え方や指導の工夫等について自分の意見を持ちながら具体的に伝え合っていた。話し合いにより、新たな発想が生まれることや考えが深まりよりよい方向へ変容する等、他者と学び合うことの意義をあらためて認識していた。1つのテーマから多様な考えが生み出されたことで、多様なものの見方や考え方があることを実感するとともに、個々の考えが認められることで自己肯定感の高まりも見られた。

今後の目標

(1) 短期目標：学生の実態と学校現場の実際に応じた授業改善と工夫

学校現場において授業改善は重要な教育活動であることを踏まえ、今後も学生の実態把握に努め、例年通りということではなく、改善していくべきことは躊躇なく実行していく。また学生の実態に応じた実技を取り入れ、多種多様な材料や用具を扱う経験を増やすことにも注力する。

(2) 長期目標：想像力を働かせ、適切に対応できる教員（社会人）として送り出す

多様な価値観を理解し、あらゆる場面で想像力を発揮しながら適切に対応できる小学校教員として、社会人として送り出せるよう今後もよりよい教育活動に努めたい。学生個々の力を引き出すとともに、個々の成長を学生自身が実感できるようにするにはどのようにすべきかその方法を模索していく。

根拠資料

担当科目シラバス、授業アンケート、学生制作の作品、授業の振り返りシート、課題の学生の記述内容